

令和3年1月29日

乳製品需給等情報交換会議（書面開催）における御意見

東宗谷農業協同組合

- 生乳需給の安定に向け、国の政策のもと、生産基盤の維持・強化に向け取り組んでいるところだが、北海道についてはようやく生乳生産が増産に転じ、都府県においても減少に歯止めがかかり、これまでの投資や取り組みの効果があらわれてきている。また、北海道は来年度も2%~2.5%増の見込みである。
- しかしながら、昨年春からコロナ禍による生活スタイルの変化により、業務用乳製品の需要が大きく減り、乳製品在庫が高水準となっている。生産者としても需要拡大対策等に取り組んでいるが、生産が継続できるか不安が増している。
- 令和3年度の国家貿易の輸入枠数量については、正直な気持ちとしてはゼロとしてほしいが、やむを得ない。コロナ禍でバターや脱脂粉乳の在庫が急速に増えている中で、国際協定上の最小限の輸入とはいえ、生産者としては今後の生乳生産に大きな不安となる。
- また、牛乳乳製品を消費者の皆様が安心して食べていただけることを第一に国内生乳生産への影響が生じないように、ひきつづき国の需給調整機能を発揮していただきたい。

ホクレン農業協同組合連合会

- 毎日消費者の皆様が安心して牛乳を飲んでいただくためには、現状の生乳生産量を維持・拡大しなければならない。このため、酪農乳業業界が一丸となって取り組んでいるところである。
- コロナ禍により業務用を中心に乳製品需要が大きく減り、急速に在庫が増えている。
- これに対し、生産者として需要拡大対策を講じるとともに、国においても需要拡大にむけた各種対策を講じてもらっているが、在庫水準が改善するまでには数年かかると見込まれる。
- 令和3年度の国家貿易の輸入枠数量については、カレント・アクセス分を輸入するという点について、やむを得ないが、結果として在庫がさらに積み増されることとなることから、生産現場への影響が生じないように、ひきつづき国が需給調整機能を発揮し、需要喚起・拡大が図られるようお願いする。

(一社) 中央酪農会議

- 今年度の生乳生産量は、これまでの基盤強化の取組がようやく実を結び、全国で101.0%、都府県においても8年ぶりに100.3%と増産が見込まれる。
- 他方、コロナ禍により業務用需要などが減り、乳製品の在庫は増加しており、Jミルクの需給見通しによれば、令和3年度末に脱脂粉乳が98.8千t（9.3カ月分）、バターが38.4千t（5.6カ月分）（いずれも令和3年度の国家貿易による輸

入分を除く)と、膨大となる見込みである。

- このように令和3年度は十分な供給が見込まれるため、できることなら国家貿易の輸入枠はゼロにしてみたいというのが生産者団体の率直な意見である。
- ただし、国際約束により輸入せざるを得ないであれば、
 - ① 最低限の数量にとどめるとともに、
 - ② 過剰感が強い脱脂粉乳ではなく、バターで消化することとし、
 - ③ バターオイルなど国産バターと競合しにくい製品で極力消化するなどの工夫をお願いしたい。
- くわえて、需給改善に向けた支援策の拡充や業界関係者の機運醸成など国による総合的な需給調整機能を発揮するようお願いする。

(一社) 日本乳業協会

- 直近の生乳生産は、前年を上回って堅調に推移している一方、需要面については、コロナ禍によって、いわゆる巣ごもり需要としての、家庭用の商品群の増加は見られるものの、外食需要が回復しないことや、インバウンド需要が喪失していること等から、特に業務用の需要についてはひきつづき低調に推移すると考えている。
- 家庭用バターの需要は、依然として高い伸びが続いているが、市場は落ち着いており、まもなく最初の緊急事態宣言発令から1年が経過することもあるので、今後も欠品などの問題はないと考えている。
- 業務用バターの需要は、GoToキャンペーンの効果などでポンドは少し戻ったものの、バラは低迷したままであり、今回「緊急事態宣言」が再発出されたことをふまえると、当面は業務用バターの回復は難しい状況にあると考えている。
- また、同様に脱脂粉乳についても需要の動きは鈍く厳しい状況が続いている。
- こうした中で、学校が春休みとなる年度末や、生乳生産量が季節的に最大となる4～5月にかけては、生乳需給が大幅に緩和する可能性が高く、脱脂粉乳・バター等向の処理が最大化することから、乳業者が保有するバター、脱脂粉乳の在庫は非常に高い水準となり、乳業者の大きな負担となると考える。
- 現在、国で進められている脱脂粉乳の飼料用等への活用対策や、新たに措置されたバター等の需要拡大対策によって一定量の在庫解消が期待されるものの、脱脂粉乳・バターともに在庫水準は高いうえに生産量がさらに増加する見通しであることから、「次年度はバター・脱脂粉乳ともに輸入する必要はない」と考えおり、国家貿易による乳製品の輸入・売渡については、適切かつ弾力的な運用を強く求めたい。

(一社) Jミルク

- コロナ禍による牛乳乳製品の業務用需要の大幅な減少等より、乳業者の乳製品在庫は非常に高い水準となっており、特に直近ではGoToキャンペーンの停止等の影響によってさらに悪化している。
- 現在、国がすすめている脱脂粉乳の飼料用等への活用対策や、新たに措置された

バター等の需要拡大対策によって一定の在庫が解消されると期待されるものの、脱脂粉乳・バターともにさらに生産量が増えると見込まれることから、国家貿易については、適切かつ弾力的な運用を強く求める。

- また、国産生乳の需要基盤を拡大・強化するためには、国内市場を拓げるとともに、アジア近隣諸国への輸出拡大を図るなど中長期的な視点での対策が重要となることから、国の支援策を積極的に活用したうえで、業界で連携した具体的な取り組みを着実にすすめていきたい。

卸売業者

【業務用】

- バターについては、6月以降回復基調だったが21年1月にGoToトラベルが一時停止されてからは鈍化している。
 - ① 百貨店においてはテナントの撤退で洋菓子や焼き菓子、お土産関係も下げ基調となっている。
 - ② パン関係ではコンビニエンスストアは減少し、食パンは前年を維持し、菓子パンは落ち込んでいる。
- 脱脂粉乳についても全体としてはバターと同様である。(脱脂粉乳の主な仕向け先である)発酵乳はもともと需要に高止まり感があるが、特に飲料系の動きが悪い。
- 脱脂粉乳の取引量は通常、需給動向や製品(発酵乳など)の販売動向に左右されるが、スポット販売による取引も活発である。
- 価格は全体としてゆるやかな下げ基調だが、在庫消化を目的に値下げして販売される例も散見される。
- 国内乳製品需給が変動すると、かならず調整弁として業務用関係者にシワ寄せがくる。このことにより、これまでユーザーからの信頼が薄まった経緯もあるため、国等で措置している対策をしっかりと進め、在庫が長期にわたって過多とならないよう求める。

【家庭用】

- 小売店への納品は、基本的に前年の数量に基づいて割り当てられているため、現時点でも納品率100%※とはなっていないが、売場における欠品は完全に解消され、バター供給は順調であると認識している。
 - ※ 納品率 = 小売店への納品数量 ÷ 小売店からの発注数量。100%というのは発注通りに納品したということ。
- 具体的には、当社のバター納品率は2020年4～5月は50%台だったが、9月以降は80%前後、最盛期である12月は88%であった。なお、外部POSデータである日経データと当社の売上実績について、前年比をみると、かなり近い値(例えば12月では日経が113.3%、当社112.7%)となっていることから、日本全体としても同様の状態にあると推察できる。
- 今後のバター需要は、業務用がいつ回復するのか、昨年春のような巣ごもり需要

が再び生じるのかによって大きく左右されると考えている。

- ひきつづき前年並の供給を確保していけるよう、各メーカーと連携を強化し、鋭意尽力したい。

（一社）全国スーパーマーケット協会

- 全国の既存スーパーマーケット店における 2020 年 1～12 月のバターを含む乳製品の売り上げは前年比 105%であった。
- 在宅勤務の増加によるスーパーマーケットでの変化として、①混雑時間帯の午前への集中、②来店頻度の減少、③買い上げ点数の増加、④客単価の上昇がみられる。また、本年 1 月の売り上げは前年比 105%と緊急事態宣言中も高止まりしている。
- お客様のライフスタイルの変化は完全に戻ることはなく、しばらく需要の高まりが続くと予想している。
- 売り場でのバターの欠品は報告されていない。

（一社）全国消費者団体連絡会

- コロナの先行きが不透明な中、乳製品の需給を見極めるのは難しいが、昨年のような家庭用バターの欠品や品薄状態が起こらないよう、ひきつづき対策をお願いする。
- 現在バターや乳製品は十分に供給されているが、ステイホームの影響により家庭における牛乳やバター、はっ酵乳の消費は高水準がつづくと思われる。
- また、コロナ禍による景気の低迷により、消費者の低価格志向もすすむことから、適正な価格での安定供給を求めるとともに、酪農乳業界が直面している状況について消費者の理解が得られるよう、情報発信に努めることも重要と考える。

（一社）日本パン工業

- バターの調達については、ひきつづき特段の支障はない。
- 国産バター・輸入バターの価格差もふまえつつ、当業界がバターを将来にわたり安定的に使用できるようお願いしたい。

協同組合 全日本洋菓子工業会

- 洋菓子生産へのコロナ禍の影響は、業態や規模などにより異なる。
- バターの調達については、大きな需要期である年末もまったく問題なく、今後についても不安視する声は聞かれない。ひきつづき安定供給をお願いしたい。

(一社) 日本洋菓子協会連合会

- 昨年末のクリスマス期におけるバター需給については、必要在庫を満たしていたことにくわえ、コロナ禍でホテルの菓子生産が減ったこと、多くの洋菓子店が予約による限定生産を行ったことなどにより、不足や混乱はまったく見られなかった。
- 洋菓子業界においては、ひきつづき2月のバレンタイン、3月のホワイト・デーと大きなイベントがあるが、既にその準備に入った現時点でも安定した状況であることから、この先も大きな混乱は起こらないものと予想される。

全国菓子工業組合連合会

- 菓子業界では、コロナ禍による旅行客の減少から土産菓子を中心に販売額が減るなど大きな影響が生じている一方で、巣ごもり需要とみられる堅調な家庭需要もあり、洋菓子の中には好調な販売を示すものもある。
- 乳製品の供給については、量的な不安はないものの、土産菓子原料として需要の高いバターの価格が高止まりしており、経営を圧迫しているため、今後の検討にあたっては、低廉な乳製品の供給が行われるよう配慮をお願いしたい。

(以 上)